

薬剤師として、国際協力を志す

青年海外協力隊員として、
ガーナでHIV対策に取り組む薬剤師の奮戦記です。

HIV検査・カウンセリング(CT/PMTCT*)

*CT: Counselling and Testing (一般のHIVカウンセリングとテスト)
PMTCT: Prevention of Mother to Child Transmission (母子感染予防)

ガーナのHIV感染率は1.7% (2008年) であり、近年減少傾向にあります。また他のアフリカ各国より低い値となっています。しかしながらガーナ国民の10%のみが自らのHIVステータスを知っていると推測されており、ガーナ政府の国家エイズ対策委員会 (NACP) では、2015年までにこれを30%まで増加させる目標を掲げ、「Know Your Status Campaign」というプログラムを推進しています。これは、「HIVは身近な問題であり、誰にも感染のリスクがあるから、みんな検査を受けて自分のHIVステータスを知りましょう」という趣旨のキャンペーンです。

それを受けて、私の所属する、イースタン州 (HIV感染率がガーナ最高の4.2%、2008年) アソオジャマン郡保健局でもアウトリーチHIV検査・カウンセリングを活発に行っています。地元のNGOやコミュニティのボランティアが、医療施設にアクセスが困難な人たちの為にHIV検査を企画したり、郡保健局が若者の集まりそうなイベントにあわせて簡易検査所を設けてHIV検査・相談を実施したりしています。



アウトリーチHIV検査の簡易検査・相談所

地域によっては、HIVやエイズに対する偏見が強く、なかなか人が集まってくれないこともあります。そのような時は、HIVや性感染症に関する映像をスクリーンで流して、人々の注目を集めてHIV検査の重要性や必要性を理解してもらったり、村長さんなど、地域に影響力のある人の協力を仰ぎ、地域の人を集めてもらったりしています。

また、妊産婦に対するHIV検査も母子感染予防のためにとても大切な活動です。当郡では、妊婦に対するHIV検査の普及が医療機関に登録している妊産婦の約半数に留まっています。なので、女性に自宅ではなく、医療機関での出産を勧め、検査の重要性を伝えたり、必要な検査資材が不足しないように供給を促したりしています。

HIV検査をしていて、もっとも難しいと感じることは価値観の違いです。例えば、プライバシーに対する考え、健康に対する考え方の違いです。検査をする中で、待機している受検者が周囲から特定できる状況が見られたり、カウンセリング中の会話を待機中の他の受検者に聞かれる恐れのある様子が確認されたりしています。また、カウンセラーや医療従事者が受検者の記録書類を他の誰でも見ることのできる場所に保管するなど、プライバシーに関する環境が十分でない状況がよく見られます。私は日本人の感覚として、クライアントのプライバシーが守られるのが当然と思っていたのですが、話をしてみると医療者の間でも一般の間でも意識はさまざまで、どのようなスタイルや方法がいいのか、いつも試行錯誤しながら検査所の設置、運営に当

⑤ 後町陽子 (ごちょう・ようこ)

2003年-2004年 薬学生の集い (APS-JAPAN) 会長
2005年-2006年 国際薬学生連盟 (IPSF) 本部役員
2007年 明治薬科大学卒業
2008年9月~青年海外協力隊としてガーナ イースタン州 アソソボのアソオジャマン郡保健局にてエイズ対策分野で活動中
連絡先: yohkocco04007@yahoo.co.jp
ブログhttp://yohkotin.blogspot.com/
Website http://www.geocities.jp/yohkocco0407/



妊婦検診で助産師がHIV検査を行っている様子

たっています。

また、健康に興味のない人、将来よりも目の前の生活で精一杯の人もいます。そのような人々はHIV検査で陽性とわかって治療が必要なケアを継続することが難しい状況にあります。そのような人々には継続的にカウンセリングを行い、生活をサポートしていくことにしていますが、いつも自分の考えの押し付けになっていないか自問自答しながら、迷いながら行っています。これからも、カウンセラーの育成やコミュニティでの教育活動の際にHIV検査について説明をすること、継続的なモニタリングを中心に活動を進めていく予定です。



HIV検査を街頭で呼びかけている筆者

ガーナの薬局

ガーナでは、薬局は薬剤師または薬学関係の教育を受けた人が開設、管理することができます。大きな町に行けば、たいいてい薬局を見つけることができます。

町の薬局でよく売れている商品は、「ブラッドトニック」と呼ばれる、いわゆる血液の成分となる鉄やビタミンB12などが豊富に含まれたサプリメント液剤です。ガーナをはじめとする西アフリカでは、マラリアは非常に一般的で深刻な病です。マラリアは赤血球を破壊するため、このブラッドトニックがよく売れているそうです。しかし、実は、マラリアでも貧血でもない人もこれをよく買いくるそうです。ガーナでは昔から、太っていることが裕福な証し、太っていることが美しいという価値観があります。そのため、太るために栄養をとろうと、これを購入する富裕層の人々もいるそうです。



薬局内部と店主のDr. キングスフォード先生

また、抗マラリア薬や抗生物質、向精神薬も、薬剤師がいる薬局には置いてあります。

これらは処方箋なしでも購入できます。風邪やマラリアも、本来ならば自己治療するべきではないのですが、金銭的な事情や地理的なアクセスの問題などの理由から、薬局で薬を買って、自己治療する人も多くいます。そういった意味でも、薬剤師の役割は非常に大きいと感じます。

現在ガーナでは、ほとんどの医薬品が中国やインドから輸入されています。

しかし、この中には、非常に精密にできた、偽造医薬品 (counterfeit medicine) も多々流通しているのが現在大きな問題になっています。町の市場や繁華街では、多くの規格外医薬品が資格のない人々により売られている光景もよく見られます。これらの規制、また、医薬品の適正使用に関する一般の人々への教育に関しても薬剤師は貢献が期待されています。

参考資料:
National HIV Prevalence and
AIDS Estimate Report-NACP
2008年度 HIV Sentinel Survey Report-NACP